

令和5年度（2023年度） 鴻池小学校 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和6年 2月21日（水） 18：00～19：20
2. 場 所 鴻池小学校 視聴覚室
3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・寺井副会長・北田委員
堤委員・小西委員・濱崎委員・照喜名委員
教職員 : 宮谷校長先生、安井教頭先生
その他 : 寺井コーディネーター

4. 学校長あいさつ

雨も降る中、また、お忙しい中お越しいただき、本当にありがとうございます。1月は行く、2月は逃げる、3月は去る、と言いますが、2月の後半に入り、あっという間に3月を迎えるところまで来ています。19日から低学年・中学年・高学年の順番で参観・学級懇談会が始まりました。今日は高学年の参観がありましたが、6年生は卒業まで18日となり、保護者への感謝の会を開いていました。各学年とも振り返りの時期となり、1年間のまとめの発表をしたり、5年生は苦手な算数の授業をしたりしていました。振り返りの時期が来ているということは、終わりの時期が来ている、終わりが来ているということは次のスタートを見据えておかなければならないということです。私はスタートが来た時には終わりを考えておく必要があると思っています。今年は大きな制限がない中の歩みとなりましたが、「まずはやってみよう」を合言葉に、子どもたち、教師、保護者が1年間様々な取り組みを行ってきました。子どもたちにどんなことができるのか、子どもたち一人一人を主語にした学校教育はどういうものかを常に考え、運営してきました。このあと、今年度の振り返りをしてまいります。忌憚のないご意見・ご感想をよろしく願います。

5. 課題

(1) 3学期の学校運営について

(学校だよりに沿って、3学期をふり返り)

- ・始業式では、失敗があるから成功があるということ、大谷選手、スラムダンクの安西監督、エジソンなど、有名人・偉人を引き合いに出し、話した、どんな失敗も新たな一歩になる、何事にもチャレンジしようと呼びかけた。
- ・1月17日（水）に避難訓練を行った。1月1日に能登半島地震があったこともあり、子どもたちは真剣に取り組んでいた。子どもたちには、自分の命は自分で守ることを伝えた。当日の給食は防災献立だった。災害時の食事、備蓄品について考える良い機会になった。
- ・第41号では、学校評価の結果を掲載した。児童の評価、保護者の評価を見ると、読書、家庭学習に課題があることがわかる。特に家庭での読書の数値が極端に低い。

- ・ P T A主催で漢字検定があった。55名の子どもたちが自主学習・家庭学習の成果を発揮しようと真剣に取り組んでいた。
- ・ 2年生が1年生、幼稚園の子どもに向けて、「おもちゃランド」を開催した。手作りのゲームやおもちゃを披露していたが、年下の子に優しく声掛けする様子が多くみられ、成長を感じた。
- ・ 3年生は1年生に向けて本の読み聞かせを行った。1年生に喜んでもらい、3年生も嬉しそうだった。異学年交流は子どもたちの自己肯定感を高めてくれる。
- ・ 1月27日（土）にオープンスクールを実施した。多くの保護者のみなさん、また、学校運営協議会の委員のみなさんにも参観いただいた。子どもたちの様子を見ていただく貴重な機会となった。
- ・ ものしり博士委員会の子どもたちが新たな企画として「びっくらほん」という企画を行った。「びっくらほんチャレンジカード」を達成するとガチャガチャができるというものである。たくさんの人に本に触れてほしいという思いがこもっている。ピカピカ委員会も新たな企画を行っており、子どもたちが委員会活動を積極的に盛り上げてくれている。
- ・ 2月3日（土）に「ほめてもら王カード」を題材にP T Aの伊同教の発表があった。
- ・ 2月8日（木）は一日入学があり、入学説明会を行っている。

（2）学校関係者評価について

（資料に基づき、説明）

<教員の評価>

- ・ 教員の評価については、肯定的な評価が概ね90%以上となっている。また、授業力向上のための授業改善については、100%が取り組んだとなっている。しかし、個々の子どもたちに関わることができているかについては、まだ課題が残る。
- ・ 朝読書については、P T Aにもご協力いただき、意識的に取り組んでいる。今後も引き続き、実施したい。
- ・ 子どもの自己有用感については、98%が意識して取り組んだとなっており、児童の評価でも数値としてその成果が表れている。
- ・ 問題事案が起きたときの情報共有については、98%が行っている。また、支援が必要な児童に対する支援体制の構築についても、94%が協力的にできていると回答している。教員一人が抱え込むではなく、みんなで協力して取り組むという体制ができている。
- ・ 教員同士で学級を見合える環境になっているかは、91%。テストの時などを除き、ほとんどの教室のドアが開放されており、いつでもみんなが見に行ける状態になっている。

<児童の評価>

- ・ 読書に関する数値が81.4%となっている。P T A、もの知り博士委員会の活動もあり、子どもたちの読書冊数は1万冊以上増えている。
- ・ 自分から学ぼうという意欲があるか、また自己有用感を測る項目についても、90%以上となっている。

<保護者の評価>

- ・課題は明らかである。「週末や休日に家庭で読書をしているか」という項目が、37.8%である。子どもたちは81.4%が読書に取り組んでいると回答しているのも関わらず、家庭では読書をしていない。読書に対する意識が低いということが顕著である。
- ・「タブレットを家庭学習で有効に活用していますか」については、58%である。タブレットの使い方については、子どもたちは習得は非常に速いが、それを自分がプレゼンするためにうまく使えているか、そのあたりが微妙である。タブレットはあくまで道具の一つ。だれでもどこでも学べる環境が構築されつつあり、学校の教室だけで学ぶ時代ではなくなってくる。ICTをどのように活用し、学びを深めていくか考えていかなければならない。

<学校関係者評価を受けての今後の課題・改善点>

(学校評価総括表に基づき、説明)

- ・授業改善については、主体的な取り組みという部分で課題が残る。朝学習については、引き続き、基礎的・基本的学力の向上のために質の向上を図っていく。
- ・家庭学習の取り組み方を考える必要がある。CRTの結果については、家庭に持ち帰る資料には詳細な結果までわからない形になっているが、教員が一人一人の児童の状況を把握し、苦手な分野について、補充学習をするようにしている。読書活動については、家庭での読書にもっと取り組むことができるように方策を考えたい。
- ・学級力アンケートについては、今後も引き続き活用し、主体性を育む学級づくりに活用する。
- ・教員のアンケートの結果から、普段の授業や教育活動、オンライン授業等でタブレットを活用できている。新しい時代に対応した教育を推進するため、デジタルを効果的に活用しながら、個別最適な学び、協働的な学びを実現したい。
- ・豊かな心を育成するために、道徳科の教員が中心となって、「考え、議論する道徳」に意識的に取り組んでいる。その成果もあり、子どもたちのアンケートでは、「よりよく生きるための心について考えようとしている」という項目が90%となっている。
- ・いじめアンケートや児童アンケートについては、教職員全体で実態の把握、情報共有を図り、迅速かつ組織的に対応するようにしている。
- ・先ほどもお話したが、今年度はものしり博士委員会、ぴかぴか委員会をはじめとする委員会活動が非常に活発になった。仲良し生活委員会を代表委員会のような役割とし、よりよい学校づくりに向けて、子どもたち自身が考え活動している。現在、仲良し生活委員会では、能登半島地震の被災者の方への募金活動を検討している。
- ・体育科の授業については、児童アンケート、教員アンケートともに97%が好意的な数値。運動する楽しさや喜びを体感できる機会を設けることができている。
- ・「朝ごはんを食べている」という項目は90%以上の子どもたちが食べていると回答している。引き続き、PTAと連携を図りながら、規則正しい生活を推進したい。
- ・生徒指導、特別支援については、教員の共有フォルダを作成し、そこで情報共有できるようにしている。支援が必要な子どもについては、研修や教員間の情報共有を密にし、学校全体で対応している。また、伊丹特別支援学校との交流も行っている。

- ・教職員の資質向上のために、教員には、子どもたちが身に付けた力を自覚できるように、振り返りの時間をしっかり確保すること、学んだことを他教科にも生かすことを意識するようお願いした。教員アンケートでも意識的にそれらに取り組んだとの回答が90%以上となっている。今後も継続して取り組みたい。
- ・積極的な情報収集、適切な情報発信を心掛けており、保護者アンケートからも98%の好意的な数値をいただいている。
- ・学校教育目標は教職員全員で共有をしている。
- ・教員の働き方改革、業務改善については、子どもに関わる部分は減らせないが、行事や会議の精選、仕事内容の見直しなどを行い、バランスを見ながら進めている。

<主な質疑応答 ●：委員 ○：回答>

- 最近、学級閉鎖になった知り合いの子ども（1年生）を家で預かった。その際タブレットで問題を解いていたが、17は○と8、14は△と4を足したものという問題で、○、△が出てこない。そのため、図で書いて説明したが、理解するのが難しそうだった。勉強がしんどい様子が見てとれたが、どのように働きかけたらいいか悩んだ。
- 1年生は現在100までの数をしている。しんどい子にとって、タブレットやプリントの課題はほんとにしんどい。できる子にとってはなんともないが、できない子にとっては非常に難しい。そこは、対面に対応するようにしている。しんどい子は少し予習した方がいいかもしれないが、それを先生方に課すと放課後に見ることになる。先生方の業務量を考えながら、放課後の学習がどの程度できるのか、今一度考えるときに来ていると思う。
- 計算をスムーズにするためには、どうすればいいのか。
- 足し算については、5の塊、10の塊を呪文のように唱えて、反復して覚えることも効果的である。
- 学級閉鎖になると家庭で親が見ることになる。1日は休めるが、2～3日になるとしんどい家もある。やむをえないことだが。
- 本校は学級の3割が休んだら、学級閉鎖という形にしている。
- 学級懇談の際、担任の先生から「5年生は計算力が非常に弱い」というお話があった。そういう情報は保護者も知りたいし、知っておくべき情報だと思うが、懇談に参加した保護者は8名ぐらいだった。そういう内容も学級通信などで発信していただけるとありがたい。
- CRTの結果を見ると、今の5年生は算数がかなりしんどいことが明らかである。計算力が非常に弱いという結果が出ており、5年生全体で意識的に取り組まないといけない課題である。今後は、学年通信などでお知らせしていくようにする。
- 総括表の評価は校長先生がつけられた評価ですか。評価の部分で、課題は家庭学習だと感じた。計算の話も保護者が少し家庭で子どもを見てあげたら違うと思うが、そこがなかなかできない。それが一番の課題だと感じた。
- 評価は校内の部会の評価である。教員はそれぞれ研究グループ、学力向上グループなど所属している部会がある。図書については、まだ課題があり、部会の評価がBだったため、Bという評価になっている。家庭学習は、宿題と自主学習があり、自主学習については、3年生から始まる。そのため、3年生は自主学習としてこんなものをやってみようという発信しながら進めているが、保護者の中には自主学習の必要性があるのかという人

もいる。かたや、自主学習まで宿題にしてほしいという人もいる。自主学習の意味、必要性が理解されていないところがある。

- プリントの中に宿題として取り組む部分と自主学習として取り組める人は取り組もうという部分を作ってはどうか。先生方の負担にはなるかもしれないが。
- 計算力が弱いということだが、100マス計算のようなものはしているのか。
- 音読計算はしている。家庭での自主学習として、読書をもっとしてほしい。近くにきららホールがあるので、活用してもらいたい。
- オープンスクールで来校し、廊下やすぐ取れるところに本の掲示がたくさんあり、とても良い環境だと感じた。家ではどうしても他の誘惑があり、読書に取り組めない部分がある。学校は環境が整っているとので、読書も取り組みやすいと思う。保護者のアンケートを見ると、宿題はきちんとしている、子どもは楽しく学校に行っているが93%以上となっており、とても良い。子どもが朝ごはん食べ、楽しく学校に行っているなら、根底はきちんとしてきている。中学校ではそれができていない現状がある。自主学習については、週末など時間のあるときにお城や歴史、一つ興味のあるものを調べてみる、それを掲示に貼りだすといったことをしていけば、興味も湧いてくるかもしれない。先生の発信方法で変わる部分もあると思う。自主学習は、あくまで自主学習なので、自分で興味を持ち、取り組むことが大事だと思う。
- 家に帰ってから、子どもに任せて学習するわけがない。保護者の関わり方が一番大事。おしりを叩くことだけでなく、保護者がリビングで勉強するのを少し付き合っただけで、それが大事だと思う。
- 全国学力テストの結果を見ても、読書、家庭学習ともに取り組んでいるという数値が全国平均より10%近く低い。学校では読書をするようになってきているのに、家庭ではなかなかできない。読書することで世界が広がる、自分で言葉を発信し、表現できる力が育つ。本校の子どもたちは、授業中、わかっているのに手をあげない、発表しない子が多い。自分の言葉で発言する子、主体的に行動できる子を育てないといけない。人の意見を聞く、うなずく、協働的に学んでいくことについては比較的できている。しかし、班で考えたことを発表するときになると「シーン」となる。そこを改善していきたい。
- 幼稚園の子どもたちも主体的に活動することが課題。幼稚園においては学習ではなく「遊び」になるが、主体的に遊んでいくことがいずれ学習につながっていくので、そこを育てたい。学校評価において、全体的に肯定的な意見が多いことは素晴らしいと思う。幼稚園の子どもたちも色んな学年の子どもたちと交流させていただいている。来週も5年生と給食交流会をする予定であり、とても楽しみにしている。今日は学校探検をさせていただき、4年生の実験をしているところを見学した。そのときも班で実験をしていたが、1人はタブレットで実験の様子を記録し、1人は自分が予測したことと実際の実験で起こっていることを比べて考察しているようだった。幼稚園の子どもたちはその様子をととてもワクワクしながら見ていた。その際に、幼稚園の子たちが質問すると幼稚園の子どもたちに伝わるように説明していた。その時間は幼稚園の子どもたちにとっても、4年生の子どもたちにとっても、とても刺激的で有意義な時間だった。また、図書室では、図書ボランティアの方の読み聞かせの話をお聞かせもらった。図書室では、読み聞かせを聞いている子以外にもたくさんの子供たちが絵本を読んでいた。委員活動も盛んになっているとのことだったが、図書室に読書名人ランキングが貼りだされており、委員会の子たちが頑張っている様子が窺えた。今日一日鴻池小学校を見学させ

ていただただけで、様々取り組みが進んでいる様子を肌で感じる事ができた。学校評価の「確かな学力の育成」の重点項目として、「学級を基盤とした児童理解と学級活動の充実」があがっているが、やはり学級づくりが大事だと改めて感じた。それは幼稚園でも同じである。子どもたちが自分の考えを伝えるためには、学級が居心地のいい空間、何を言っても許される空間になっているか、そのような空間であれば、子どもたちはのびのびと表現できると思う。学級をそのようにつくっていくことをこれからも引き続き取り組んでほしい。

- 学校教育目標を実現するために様々な取り組みをしているが、やはりベースとなるのは学級である。学級が居心地のいい空間になれば、子どもたちは自ら主体的に活動し、学力も向上していくと思う。よりよい学級づくりに今後も努めたい。

(3) 来年度の学校運営方針について

- ・子どもたちが自主的・主体的に活動し、活気に満ちた学校を実現するために、「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いて、授業改善を図っていく。自己肯定感については、全国平均とそれほど変わらないレベルまで上がってきているので、この状態を保てるようにしたい。地域、家庭、学校が一体となって、学校教育目標「ひとみ輝き笑顔あふれる鴻池小学校」の実現を図りたい。そのためには、子どもたちにとってウェルビーイングな学校を目指す必要がある。
- ・確かな学力の育成、豊かな人間性・社会性の育成、たくましい心身の育成と、生きる力の育成に向け、知・徳・体のバランスの取れた力を育てたい。
- ・子どもたちの学びの形も変わってきている。ICTを効果的に活用し、教わる授業から自ら学びとる授業への転換期にきている。教員も研修を重ね、Team鴻池で対応していきたい。

<主な質疑応答 ●：委員 ○：回答>

- 来年度の夏は酷暑になるとすでに予報が出ている。子どもたちの健康安全を第一に、熱中症対策については、今一度確認・見直しを行ってほしい。
- 年々酷暑となっており、体育大会の日程をずらすことも検討している。市議会でも空調設備のさらなる整備について議論がされている。万全に対策し、対応する。
(学校長より、各委員に学校評価総括表の「学校関係者の評価」の部分を入力し、は2月中に提出するようお願いがあった。)

6. その他 委員改選に伴う委嘱手続きについて

学校長より、来年度も引き続き委員を担う方へ2月中に必要書類を提出するようお願いがあった。

7. 閉会あいさつ (阪田会長より)

現在の学校の様子について、たくさんお話をいただいた。私が感じているのは、職員室の雰囲気がとても良く、先生方の様子を頼もしく感じる。学校評価をみると、学校が楽しいですかとの質問に対し、98%が楽しいと回答している中、そうじゃないと回答する2%の子たちがどう思って過ごしているのかが気になる。何か抱えている子たちや困っている子たちに関わってあげたいと思う。来年度に向けて、先生方から「こういう

「できませんか」ということを言っていただけたら、運営協議会、SC21、PTA
として協力できる部分はぜひしていきたい。